短　報

急性貧血を伴った偽膜性膀胱炎の猫の1例

小林沙織[1)†]　藤原玲奈[2)]　泉谷宗蔵[2)]　山口征浩[3)]　木内　充[3)]

1）岩手大学獣医学部（〒020-8550　盛岡市上田3-18-8）
2）岩手大学獣医学部附属動物病院（〒020-8550　盛岡市上田3-18-8）
3）岩手県　開業（エル動物クリニック：〒024-0012　北上市常盤台1-5-12）

（2025年3月3日受付・2025年7月1日受理・2025年9月30日公開）

本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/78/9/78_e130/_article/-char/ja

要　　約

猫の偽膜性膀胱炎は，膀胱粘膜部分剝離による隔壁構造が特徴の比較的予後良好なまれな疾患である．今回，膀胱粘膜の全剝離と急性再生性貧血を示した猫を経験した．13歳の去勢雄猫が食欲廃絶と排尿困難となり一次診療動物病院を受診した．持続する血尿により7日後にPCVが50%から16%まで急激に低下し容態が悪化した．超音波検査では膀胱内に隔壁構造を伴わない，石灰化を伴う占拠性腫瘤を認めた．超音波及び病理組織検査より偽膜性膀胱炎と診断した．本症例から，偽膜性膀胱炎は典型的な隔壁構造が認められず診断が困難となり得る場合があること，膀胱粘膜の急激な剝離により急性貧血が生じ得ることが示唆された．尿閉を示す猫では頻回の超音波検査を行い，膀胱粘膜の急激な剝離がみられる場合，急性貧血のリスクを考慮し早期の外科的介入を検討すべきである．

――キーワード：急性貧血，猫，偽膜性膀胱炎．

日獣会誌　78，e130～e136（2025）